

製品名: GCN5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11359**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	100kDa

抗原情報

遺伝子名	KAT2A KAT2A; GCN5; GCN5L2; HGCN5; Histone acetyltransferase KAT2A; General control of amino acid synthesis protein 5-like 2; Histone acetyltransferase GCN5; HsGCN5; Lysine acetyltransferase 2A; STAF97
別名	
遺伝子 ID	2648.0
SwissProt ID	Q92830
免疫原	抗血清はヒト GCN5L2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 691-740

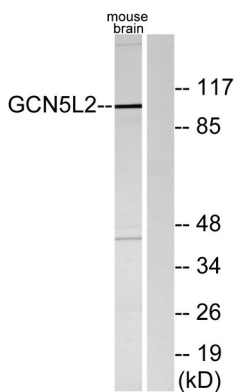
背景

KAT2A または GCN5 は、主に転写活性化因子として機能するヒストンアセチルトランスフェラーゼ (HAT) です。また、NF- κ B のリプレッサーとしても機能し (MIM 164011 を参照)、HAT 非依存的に NF- κ B サブユニット RELA (MIM 164014) のユビキチン化を促進します (Mao et al., 2009 [PubMed 19339690])。[OMIM 提供、2009 年 9 月]、体節形成、領域化、クロマチン構成、クロマチンリモデリング、転写、DNA 依存性、転写の調節、DNA 依存性、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの転写の調節、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの転写、タンパク質アミノ酸アセチル化、パターン規定プロセス、出生または卵の孵化で終わる胚発生、前方/後方パターン形成、クロマチン修飾、共有結合クロマチン修飾、ヒストン修飾、ヒストンアセチル化、ヒストン脱ユビキチン化、タンパク質の脱ユビキチン化、RNA 生合成過程、分節化、脊索動物の胚発生、タンパク質アミノ酸のアシル化、ヒストン H3 のアセチル化、転写の調節、RNA 代謝過程の調節、染色体の組織化、小タンパク質の除去によるタンパク質修飾、小タンパク質の結合または除去によるタンパク質修飾、

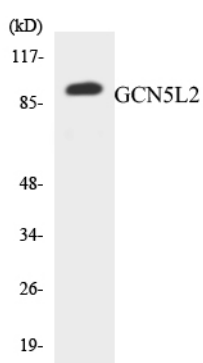
研究分野

タンパク質アセチル化

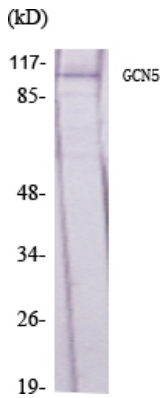
画像データ



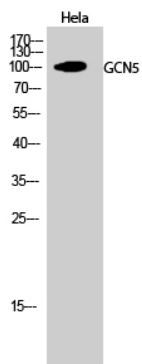
GCN5L2 抗体を用いたマウス脳ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



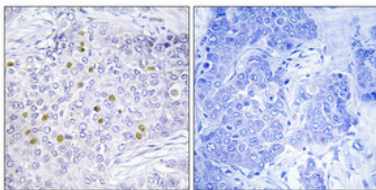
GCN5L2 抗体を使用した RAW264.7 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 1000 に希釈した GCN5 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。



1: 1000 に希釈した GCN5 ポリクローナル抗体を使用した HeLa 細胞のウエスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。